

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ゲンゼ(株)メディカル事業部包装棟増築他工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q1 建築物の環境品質									3.0
Q1.1 室内環境					0.30				3.0
1 音環境				3.2	0.15				3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40				
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.60				
2 界壁遮音性能				3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽衝撃源)									
4 界床遮音性能(重衝撃源)									
1.3 吸音		床、天井の二面に吸音材を使用		4.0	0.20				
2 温熱環境				2.6	0.35				2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50				
1 室温				3.0	0.50				
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性				3.0	0.50				
2.2 湿度制御				1.0	0.20				
2.3 空調方式				3.0	0.30				
3 光・視環境				3.4	0.25				3.4
3.1 昼光利用				1.8	0.30				
1 昼光率				1.0	0.60				
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				3.0	0.40				
3.2 グレア対策				4.0	0.30				
1 昼光制御		ブラインド+庇		4.0	1.00				
3.3 照度				3.0	0.15				
3.4 照明制御		1作業単位で制御可能		5.0	0.25				
4 空気質環境				3.0	0.25				3.0
4.1 発生源対策				3.0	0.50				
1 化学汚染物質				3.0	1.00				
4.2 換気				2.3	0.30				
1 換気量				3.0	0.33				
2 自然換気性能				3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33				
4.3 運用管理				4.0	0.20				
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50				
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50				
Q2 サービス性					0.30				3.4
1 機能性				3.1	0.40				3.1
1.1 機能性・使いやすさ				2.0	0.40				
1 広さ・収納性				1.0	0.33				
2 高度情報通信設備対応				2.0	0.33				
3 バリアフリー計画				3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				4.3	0.30				
1 広さ感・景観		外部を見渡せる窓がある		5.0	0.33				
2 リフレッシュスペース		リフレッシュルーム+自販機の設置		5.0	0.33				
3 内装計画				3.0	0.33				
1.3 維持管理				3.5	0.30				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用		4.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材を使用		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				3.0	0.20				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	0.20				

3	対応性・更新性		4.2	0.30		-	4.2
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.30		-	
	1 階高のゆとり	階高を確保することで将来の用途変更へ考慮	5.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由さ	空間の自由さを確保し将来の用途変更へ考慮	4.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり	床積載荷重:4500N/m以上	5.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.4	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新が可能である	5.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	構造部材だけではなく、仕上げ材を痛めることなく修繕更新が可能	5.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3	敷地外環境(敷地内)			0.40			2.7
1	生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30		-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30		-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						3.8
LR1	エネルギー			0.40			4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	-	-	-		-	-
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.13		-	3.0
3	設備システムの高効率化	効率のよい設備機器を導入	5.0	0.63		-	5.0
4	効率的運用		3.5	0.25		-	3.5
	集合住宅以外の評価		3.5	1.00		-	
	4.1 モニタリング	主要な用途別エネルギー消費内訳を把握できる	4.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価						
	4.1 モニタリング	-					
	4.2 運用管理体制	-					
LR2	資源(マテリアル)			0.30			3.4
1	水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
	1.1 節水	自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.5	0.60		-	3.5
	2.1 材料使用量の削減	デッキ合成スラブ等を採用	4.0	0.11		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.22		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20		-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70		-	
	1 消火剤	-	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50		-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境			0.30			3.5
1	地球温暖化への配慮	高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	4.5	0.33		-	4.5
2	地域環境への配慮		2.7	0.33		-	2.7
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器の設置は無い	5.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.0	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	-	1.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33		-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	-	3.0	1.00		-	
	2 振動	-	-	-		-	
	3 悪臭	-	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	-					
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0	■	-	○	-	-	-	○	-	○	○	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0	■	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	■	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	■	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0	■	2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	■	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	■	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	■	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	3.0	■	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	■	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	■	1.0	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	■	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 昼外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	■	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標		窓システムSG		窓の日射熱取得率(η)	
Q1 室内環境		U値(W/m ² K)	窓システム	屋根	外壁
2.1.3 外皮性能		住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC
3.1.1 昼光率		屋光率	1.5%		ηAH
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率	0.0%		
Q2 サービス性能		執務スペース	0.0m ² /人	病床	0.0m ² /床
1.1.1 広さ・収納性		コンセント容量	0.0 VA/m ²	シングル	0.0m ² ツイン
1.1.2 高度情報通信設備対応		天井高	3 m		
1.2.1 広さ感・景観		リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%
1.2.2 リフレッシュスペース		想定耐用年数	0 年		
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定必要間隔	0 年		
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔	0 年		
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔	0 年		
2.6 主要設備機器の更新必要間隔		階高	0 m		
3.1.1 階高のゆとり		壁長さ比率	0.0%		
3.1.2 空間の形状・自由さ		床荷重	- N/m ²		
3.2 荷重のゆとり		外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%
Q3 室外環境(敷地内)		空地率	0%	水平投影面積率	0%
1 生物資源の保全と創出				地表面対策面積率	0%
3.2 敷地内温熱環境の向上				舗装面積率	0%
LR1 エネルギー		BPI/BPI _m	-	断熱等性能等級	対象外 相当
1 建物外皮の熱負荷抑制		自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0%
2 自然エネルギー利用				採光を満たす住戸数	0.0%
				通風を満たす教室数	0.0%
				通風を満たす住戸数	0.0%
3 設備システムの高効率化		BPI/BPI _m	非住宅	住宅	- 太陽光 0kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kW
LR2 資源・マテリアル		雨水利用率	0.0%		
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		特定調達品目	-	エコマーク商品	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		使用比率	0.0%	自治体指定の特定品目等	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
3.2.1 消火剤		オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
3.2.3 冷媒					
LR3 敷地外環境		見付面積比	0%	隣棟間隔指標Rw	-
2.2 温熱環境悪化の改善		地表面対策面積率	0.0%	屋根面対策面積率	0.0%
		見付面積S _b	m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	0 m
		緑地	m ²	水面	m ²
				保水性対策面	m ²
				高反射対策面	m ²
				基準高さH _b	0 m
				再帰性反射対策面	m ²